第２回学校運営協議会議事録

日時：令和８年 10 月 21 日（水）午後２時から４時まで
場所：静岡県立藤枝東高等学校
参加者：学校運営協議会委員６名、本校管理職５名
オブザーバ参加：本校運営委員

１　学校の現況について（資料配布・提示）
　　生徒の様子、生徒や教職員の取組、学校行事についての説明（全日制、定時制）
　　定時制閉課程に向けた取り組みについての説明

２　協議
　　静岡県教育改革実行計画、公立高校再編計画を見据えて、テーマに沿って協議

○テーマ１「地域から見る藤枝東高校の未来像（2040 年を目安に）」
＜学校からの説明＞
・少子化に伴い、2040 年度までに県立高校を 50～60 校に再編・統合。
・静岡県でも理系人材育成を掲げている中で、本校は普通科高校であるが探究活動に力をいれ、教科横断型授業実践など新しい試みを進めている。
＜意見、協議＞
・若者の就業環境の変化が著しい。多くの仕事がＡＩによる効率化などにより変化し、かつてのように、働きながらじっくりと学ぶという状況ではない。自分で考えることの重要性が増している。いろいろな教科について、複合的、横断的な学びはこれから大切になると思われる。
・探究活動は、理系分野だけでなく、社会問題などを扱っても良い。答えがわからないような問題に対して、自分で考えることが大事である。正解を出すことではなく、方向性を考えたりディスカッションしたりして、達成感を持てるような学習場面を設けることができると良い。
・将来への選択肢を自分で見出すことができるようにすること。さまざまなライフステージで自身で選択する経験をすることが大事。
・社会・労働環境の変化（AI 普及、OJT 機会の減少、ブルーカラー再評価）と高校・大学教育の課題、探究学習・批判的思考の育成、主体的キャリア形成について議論。地域拠点校としての役割に期待している。

〇テーマ２「志太榛原地域の魅力と課題」

志太榛原地域および藤枝市周辺の地域的魅力と課題（就業機会の不足、自然環境の維持など）について意見交換

・この地区の教員の研修レベルや授業づくりの熱心さを評価。進学実績の比較だけでなく、探究的な学習を通じて生徒自身が考えて学びを楽しめる環境を作ることが、藤枝東高校および地域の大きな魅力になる
・探究的学習や学校行事を通じて生徒が主体的に学び成長できる高校づくりが地域の魅力向上に繋がる。
・「ほどよく都会、ほどよく田舎」という表現が地域に合っている。生活利便性と気候・食などの魅力がある。
・就業先の不足とＵターンの課題、林業従事者の減少や耕作放棄地の増加による土砂災害リスクなど懸念点もある。
・学校行事を通じた成長が感じられる。高校での頑張りや学びの充実が地域の魅力へと繋がっていくことへ期待。

３　第３回学校運営協議会日程について

令和９年２月９日（火）午後２時から４時まで